様式第１号（第１０条関係）

2023 年度業務実績報告書

提出日　2024 年　1 月　18 日

１．職名・氏名　　准教授・坂口　昌宏

２．学位　　学位　アドミニストレーション学博士、専門分野　社会保障法、
授与機関　熊本県立大学院、授与年　2014 年

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 生活保護論（2 単位・3 年次）
②内容・ねらい 社会福祉分野の中でも、「生活保護制度」、「生活困窮者支援制度」等について学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 法制度の詳細を解説するだけでなく、「なぜ、このような仕組みになったのか」、「なぜ、このような規定が必要なのか」などを学生に考える機会を多く提供した。また現行制度の問題点や改善策についても自分なりの考えをまとめてもらうことも行った。それから要保護者、支援対象者等の現状や支援を学ぶだけではなく、当事者の生活をイメージしながら専門職としてどのような支援が必要なのかを考える機会についても提供した。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 社会保障論Ⅰ（2 単位・2 年次）
②内容・ねらい わが国の社会保障の全体像、制度設計（諸外国との比較も含め）について学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 社会保障の全体像をイメージしてもらうため、社会保障の対象となる人々のイメージ図を作成したり、制度の課題、対象者に関する視聴覚教材などを活用したりして、口頭での説明だけでなく視覚による理解も心がけた。それから、社会保障を鳥瞰的に見るために、社会保障全体の課題として、制度の狭間にある人々（例：ワーキングプア）の問題についても考える機会を提供した。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 社会保障論Ⅱ（2 単位・2 年次）
②内容・ねらい 社会保障制度各論（生活保護制度、社会保険制度（医療保険制度、年金保険制度、雇用保険制度、労働災害補償保険制度、介護保険制度））について学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 現行の社会保障制度について、制度内容を詳細に解説するだけでなく、なぜ、このような制度が必要なのか、それに合わせて、どのような目的で制度運営されているのかを意識して講義した。また学生には、現行制度の問題点や改善点を考えてもらう機会を提供した。それから、ゲストスピーカーを招聘し、現行制度の説明や実際の取組などを解説してもらった。 【ゲストスピーカー　１人】
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（1 単位・2 年次）
②内容・ねらい ソーシャルワーク実習の事前学習として、講義、見学実習を行う。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
市町村社会福祉協議会、障害者支援施設での見学実習を担当した。市町村社会福祉協議会では、職員による説明やディスカッションの機会の提供などの調整を図り、実施した。障害者支援施設では、利用者の方と同じ作業体験を取り入れ、サービス管理者からの法人から施設の説明に加え、利用者の方との対話の機会の調整を図り、実施した。また講義では、「権利擁護」を担当し、新カリキュラムに合わせて、実習中の権利擁護に関する内容について、グループワークを通して理解できるような機会を提供した。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
ソーシャルワーク実習（4 単位・3 年次）

②内容・ねらい
240 時間（1 か所目：180 時間・2 か所目：60 時間）の実習において、社会福祉士としての専門知識、技術、価値等を実践現場で実際に体験する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
５名の学生を担当した。実習指導者との入念な打ち合わせを行い、実習で身に着けるべき知識や技術の修得のみならず、本人の特性に合わせたコミュニケーション能力や社会人基礎力の向上なども意識した実習内容、指導にしていただけるよう調整した。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（2 単位・3 年次）

②内容・ねらい
ソーシャルワーク実習の事前学習、事後学習を行う。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
５名の学生を担当した。福祉事務所に配属された実習生を担当したため、実習前に事前に実習先の地域、実習施設（障害者支援施設・福祉事務所等）の調べ学習等を行った。事後学習ではそれぞれの実習先での学びを共通して振り返りを行い、実習報告会に向けて、それぞれ個別での対応も行った。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
ソーシャルワーク演習Ⅱ（2 単位・2・3 年次）

②内容・ねらい
「ホームレス支援」、「生活保護申請時の面接」の 2 つのテーマを設定し、事例検討とロールプレイを行った。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
貧困者支援に関する科目（生活保護論）を未履修であったため、「ホームレス」とは何か、生活保護を受給する場合の条件などを解説し、事例検討やロールプレイでのイメージが湧くように努めた。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
ソーシャルワーク演習Ⅲ（1 単位・3 年次）

②内容・ねらい
今までの講義、演習、実習の経験を振り返ることを目的に、SW 実習での地域について、地域住民等による地域づくり活動について企画を考える演習を行った。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
実習地域における社会福祉協議会の職員の方から、地域福祉（主に地域づくり）に関する講話を受けた後、受講生で 2～4 名でチームを作り、地域づくりに関する企画書を作成した。この演習では、教員主導ではなく、学生主導になるように地域アセスメントから活動企画まで学生が話し合いながら、互いの意見を尊重し、一つの企画が作成できるように説明を工夫した。企画書報告会ではゲストスピーカーを招聘し、学生たちの企画書を線目職の外部機関から評価してもらった。

【ゲストスピーカー　　6 人】
【フィールドワーク等　3 件】

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
卒業研究（4 単位・4 年次）

②内容・ねらい
文献収集の方法、インタビュー調査、論文の構成、論文執筆等について、指導した。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
４名の学生を担当した。４名の学生の卒業研究、進路、受験資格取得といった活動をバランスよく実施できるよう、定期的にそれぞれの進捗状況についての報告を求め、その状況に応じた指導を行った。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
社会福祉基礎演習（2 単位・2 年次）

②内容・ねらい
社会福祉学科の 2 年生を対象にしたゼミ形式の科目であり、学生に必要と考える社会人基礎力の向上や将来の職業像として社会福祉士のイメージなどができるような演習を行った。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
前期では、視聴覚教材や文献等を活用し、学生から感想を聴き、それに対して、社会福祉士としての必要な価値観や倫理観などを伝えた。後期では、福井県社会福祉協議会と共同企画として、フクチャレ 2023 を実施した。この企画に関しては、未来協働プラットフォームふくい推進事業（福井版ＰＢＬ支援分）の採択を受け、実施している。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
現代福祉問題論（2 単位・1 年次）

②内容・ねらい
1 年生向けの社会福祉学科教員による社会福祉入門のオムニバス形式の講義である。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
「現代の生存権とは？」というテーマで、個人ワーク等を用いて、具体的なイメージができるよう実施した。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
ソーシャルワーク特別講義Ｂ（1 単位・4 年次）

②内容・ねらい
３人の教員による高齢過疎地域における地域福祉に関するフィールドワークを担当。地域住民とのコミュニケーションを通して、人の暮らしと地域との関係性について理解を深め、コミュニティ・ソーシャルワークの端緒とする。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
池田町プログラムでのフィールドワークでは、町民の方のインタビューでの対応と報告会での司会を行った。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
社会保障特論（2 単位・大学院 1 年次）

②内容・ねらい
学術論文を通して、社会保障の発展過程における課題や問題点等について客観的な視点から理解する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
2023 年度は、社会保障制度における相談支援の位置づけ等に関する文献を読み、論文の書かれた時代背景、制度の発展過程等も踏まえて解説等を行った。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
社会保障演習（2 単位・大学院 2 年次）

②内容・ねらい
１人の院生を指導した。修士論文の作成を念頭に研究テーマに関する先行研究のレビュー、論文の構成、アンケート調査やインタビュー調査の項目等について指導を行う。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 先行研究、関連領域の論文について討論し、論文の目的に合わせたインタビュー調査内容等を検討した。
(2)その他の教育活動
内容 非常勤講師（筑波大学：社会保障論Ⅰ（1年次・2単位）・社会保障論Ⅱ（1年次・2単位）、仁愛大学：社会福祉論（3年次・2単位）、福井歯科衛生士専門学校：衛生行政・社会福祉（2年次・2単位）を担当した。 坂井市大関地区まちづくり協議会主催の「こどもと作る環境条例」に関する企画への参画（令和５年４月～現在に至る）

４．研究業績

(1)研究業績の公表
①著書 【　本】
②学術論文（査読あり） 【　本】
③その他論文（査読なし） 【　本】
④学会発表等 【　件】
⑤その他の公表実績 ニッセイ財団研究助成・中間報告書（一部、執筆） 第３回地域包括ケア研究会　報告 【２本】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績
【学外】 ニッセイ財団２０２２年度高齢社会実践的課題研究助成、分担研究者、「「地域共生社会」の実現に向けた社会関係資本の実証的研究」2022 年 10 月～2024 年 9 月 【学内】 2023 年度ステップアップ研究助成　2023 年５月～2024 年３月

(3)特許等取得

(4)学会活動等

５．地域・社会貢献活動

①国・地方公共団体等の委員会審議会
福井県社会福祉センター外部委員会委員（2022 年４月～現在に至る）
福井県社会福祉センター選定委員会委員（2023 年７月～2023 年 11 月）
福井市障がい者自立支援協議会委員（2023 年７月～現在に至る）
社会保険診療報酬支払基金福祉支部運営委員（2022 年４月～現在に至る）
福井県地域年金事業運営調整会議委員（2022 年４月～現在に至る）
福井県長寿医療運営懇話会委員（2023 年９月～現在に至る）
福井県福祉人材センター運営委員会委員（2023 年 11 月～現在に至る）
社会福祉法人足羽福祉会理事（2023 年６月～現在に至る）

②公開講座
社会福祉研究セミナー2023（看護福祉学研究科社会福祉学専攻主催）
学問探求講座（武生東高校）

６．大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

FD 委員　令和３年４月～令和５年３月
就職委員　令和３年４月～令和５年３月
大学院社会福祉学専攻教務　令和５年４月～
学部・修士・博士後期課程ワーキンググループ　令和 2 年 12 月～
大学院パンフレット委員　令和４年 10 月～
社会福祉研究セミナー実行委員　令和４年４月～

(3)学内行事への参加

オープンキャンパス　担当：模擬演習

(4)その他、自発的活動など